

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900108		
法人名	特定非営利活動法人いわて地域支援センター		
事業所名	グループホームなかがわ(西棟)		
所在地	〒029-0601 岩手県一関市大東町中川字中大畑97-1		
自己評価作成日	令和4年11月21日	評価結果市町村受理日	令和5年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年2月15日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・常に笑顔で人生の先輩であるご入居者利用者様に感謝の気持ちを持ち、ご入居者様が生きがいを持って生き活きと生活できるようご支援しています。 ・ご入居者様の思いや一人ひとりのペースで暮らしていただけるように、職員間で情報の共有化に特に力を入れています。 ・ご入居者様に心配ごとや不安なことがないか常に耳を傾け、ご入居者様の立場に立ってご支援しています。 ・できることはやっていただき、できないところは支援するよう自立支援に努めています。 ・コロナ禍で、環境面での感染予防対策とワクチン接種の励行、職員の自粛行動など、感染者を出さない努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、集落の中心部にあって、周辺は田畑に囲まれた環境の良い場所に立地している。以前小学校であった校舎を活用した施設で、隣接の体育館は地区の避難場所となっている。コロナ禍の中で開催された地区の文化祭に作品を展示したり、地域の婦人会からチョコちゃんをアレンジしたボード飾りを提供されたり、農家から野菜の差し入れをいただいたりと、地域との交流に取り組んでいる。運営にあたっては、法人の定めた理念のもと、情報端末を使用した情報交換により職員間のコミュニケーションを図り、利用者に寄り添い、意向を把握し、利用者の残された能力を活用し、家族的な雰囲気을大切にしながらきめ細かなサービスを提供している。家族の意向や運営推進会議の助言、職員の提案を業務の改善や施設の整備に活かしている。また、職員の資格取得費用の支援など、知識の習得と技術の向上により一層充実したサービスを提供している。さらに、医療との連携による施設内での看取りや看護師による重度化した場合の対応の研修会を行うなど、体制の整備を図り、利用者の安心と家族の信頼を得ている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームなかがわ(西棟)

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有を図るため玄関や談話室に掲示し誰でも見られるようにし、タイムレコーダー付近に掲示して出勤時と退勤時に確認できるようにし共有を図るようにしています。	法人の理念のもと、情報端末を活用し、職員間のコミュニケーションを図り、利用者に寄り添い、意向を把握しながら、家族的な雰囲気を大切に、自立に向けたきめ細かなサービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域内で開催される文化祭への作品の展示や見学。地域の一員として回覧板を回しています。	3年ぶりに開催された地域の文化祭に、葡萄を模した作品や利用者の民家の模型を展示することが出来た。また、コロナ禍にあっても、地域の婦人会からは人気キャラクターの手作りボードの提供が、農家からは野菜の差し入れをいただくなど、地域との交流は変わりなく行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学の受け入れはしていませんが、ホーム玄関などでお話を聞くなど、その都度対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	文書で開催しております。生活の様子を報告し意見、助言、要望等を頂いております。	コロナ禍のため書面開催としているが、委員からコロナ禍の感染予防対策やオンライン・携帯電話による面会の実施などの助言をいただき、業務に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各種手続きの仕方などの指導をいただいたり、市の広報を入居者様用に毎月届けて頂いております。	市からは行政情報や広報誌は直接事業所に提供されている。行政事務組合からの介護保険関連の情報は本部を通じて入手しているが、要介護認定申請の際に所要の指導を得ている。地域包括支援センターとは、利用者の入居後の生活状況などについて、情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っておりません。法人として25年10月1日「身体拘束・虐待廃止宣言」を行い事業所内に掲示30年3月1日には身体拘束・高齢者虐待廃止指針を定め3か月に1回身体拘束委員が中心となり、チェックシートを活用しながら取り組んでいます。防犯のため夜間のみ施錠しています。	身体拘束の事例はなく、玄関は夜間のみ施錠している。スピーチロックの防止を目指し、チェックシートを活用して3ヵ月毎にグループセッションで確認し、趣旨の徹底と日々の業務での万全を期している。離床確認センサーは4名が使用し、介護ロボットは4名に導入している。	

令和 4 年度

事業所名 : グループホームなかがわ(西棟)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を行っておりません。法人として25年10月1日「身体拘束・虐待廃止宣言」を行い事業所内に掲示し、30年3月1日には身体拘束・高齢者虐待廃止指針を定め3か月に1回身体拘束委員が中心となりチェックシートを活用しながら取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見制度」などの冊子を職員に配布しているが活用されるまでには至っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書をもって説明をし、質問や疑問、要望をお聞きし、その上で理解納得をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の文書開催時には家族代表の方からのご意見をいただいております。通院報告時に電話で要望をお聞きしたり、利用料の受け取り時などに要望を伺うこともあります。入居者様とは普段の会話の中で意見や要望をお聞きしています。	家族へは、受診状況を報告する時や、利用料の支払いに来所した際に要望等を伺っている。家族からは、利用者の服装や食事(おかゆ)、乳酸菌飲料の摂取、寝具の持ち込み、駐車場の整備などの要望等があり、運営の改善に活かしている。	定期的に、家族へ施設の行事や利用者の生活状況をお知らせ(居室担当作成のメモ、写真付き)する資料などを作成提供することにより、一層、家族意向の把握に努めることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案を管理者を通して代表者に報告・相談し改善できるものは早急に改善するよう努めています。また、不定期で全体の職員会議や必要に応じて出勤者による職員会議を開催し、速やかに職員の意見を反映できるようにしています。	情報端末を職員間の情報伝達・共有に活用し、申し送り事項の共有など、日々の業務に活かしている。職員から提案のあった緊急時の連絡先一覧の作成を始め、炊事用品や音響設備、モップ、車椅子などの備品の整備のほか、テラスでの散歩、お茶会、室内での芋のこ汁の実施など、職員からの提案を具体化し日々の業務に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通して代表者へ状況報告するとともに、定期昇給を実施したり休憩時間を確実にとれるようにするなど、職員が働きやすい職場環境の整備や必要な環境整備に努めています。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームなかがわ(西棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が、毎月の行事担当を持ち回りで担当することとし、自主的に行事に取り組めるようにしています。また、資格取得のための受験料等を法人で負担するなど資格を取りやすい環境作りをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県認知高齢者施設グループホーム協会主催の研修会等に参加をしています。他施設の運営や研修で感じたことなどを復命書にて提出いただいて回覧し共有を図っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申込みの段階で家族様から生活歴を記入していただくようにし、また利用している居宅サービス事業所からも情報を収集して入居者様を知るようにしています。入居前に要望や不安などをお聞きしたり、馴染みの物をお持ちいただくなど、できるだけ今までの生活が継続できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込みの段階で家族様の介護への心配ごとやお困りのことなどをお聞きしています。現在は施設の見学等を制限しておりますので、パンフレットを見ていただいたり、口頭にて施設の紹介などをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様および家族様との信頼関係を築きながら入居者様、家族様の希望をお聞きするとともにADLの状態を把握し、必要とする支援を知るよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や習わし、季節の行事など人生の先輩として知恵やアドバイスをいただいています。家事や作業などで教えられたり支えられている部分が多々あります。入居者様一人ひとりの出来るところを見つけて家事を行っていただいています。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームなかがわ(西棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院時の報告時に様子をお伝えしたり、通院に同行いただいたり情報交換を行いながら家族の役割を担っていただき入居者様を共に支えるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の美容院に訪問してもらったり、かかりつけ医もできるだけ以前からのかかりつけ医に行くなど以前からの知り合いなどと交流できる機会を作るよう配慮しています。	利用者の希望に沿って、入居前に購入していたお店に歯磨きや化粧品、目薬などを依頼し、昔懐かしい地元名物の薄皮饅頭などで昔を懐かしんでもらっている。通院の帰路に自宅周辺を周遊したり、芝桜、棚田などの名勝を車窓から見学することもある。出身地区で敬老会があれば、自治会の方が記念品を届けてくれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係について職員間で情報共有し、座席の工夫や余暇活動を通して交流が持てるよう支援しています。また、職員が間に入りトラブルを回避したり、孤立をすることなく友好な関係が築けるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所する際に、家族の相談、事業所への連絡、調整を行いながら、いつでも相談に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話を通じて意向、希望を把握できるよう努めカンファレンスやグループセッション(パソコン上で)で周知、情報交換をし、サービスに反映させています。	利用者の希望等は日常の会話を通じて把握している。味噌汁を作る際の具の刻みのお手伝い、食器洗いや片付け、風呂用タオルのたたみ、日めくりカレンダーの処理など、利用者一人一人の出来る事や思いを大切にしたい支援に努めている。趣味やゲームに興じられるよう準備し、希望があれば乳酸菌飲料を購入したりノンアルコールやタバコも機会を見ながら提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申込みの段階で家族様から生活歴を記入していただくようにし、また利用している居宅サービス事業所からも情報を収集して入居者様を知るようにしています。入居前に要望や不安などをお聞きしたり、馴染みの物をお持ちいただくなど、できるだけ今までの生活が継続できるように努めています。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームなかがわ(西棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴などを元に一人ひとりの24時間を把握するようにしています。介護記録やグループセッションを活用し職員が情報を共有できるようにします。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の入居者様との会話の中や家族様との面談の中で意向を話あったり問題点や希望をカンファレンス時やグループセッションにて話し合い介護計画に反映させるとともにケアプランに基づくケアに取り組んでいます。	短期6ヵ月、長期1年の目標を立て、計画の見直しは6ヵ月毎に行なっている。アセスメントはグループセッションを活用して職員間で確認しあい、ケアマネが評価、作成している。見直しに当たっては、家族に説明の上で意向を確認し了承を得ている。医師や看護師の指示・助言も計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をデータ化するとともにグループセッションや日誌で日々の様子や気づきなど情報を「見える化」し職員間での情報共有を図りながら支援しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様はもとより家族様も入居者を取り巻く環境要因の重要な一つと考えそれぞれの状況の変化に応じて、入居者様、家族様の要望をお聞きし管理者の判断やグループセッションの活用カンファレンスを通じてサービスの提供や変更を職員間で共有しながら行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナの流行に伴い婦人会様や地域の皆さんとの交流は行えていませんが、今年再開した文化祭への作品作りと見学は行えました。また、巻き爪のひどい方には個別でフットケア(爪切り)の専門の方に訪問していただき対応しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の希望されるかかりつけ医に受診していますが、かかりつけ医が変更になる際は入居者様と家族が納得の上で変更されています。	遠方に居住していた1名を除き、入居後も従前のかかりつけ医を受診している。整形、眼科、歯科を含め、受診は職員が同行し、電話やメモ等により家族に報告している。受診表や記録は事業所で保存している。精神科のみ家族同伴としている。コロナ禍のワクチン接種は、個人医院で対応した。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームなかがわ(西棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お医療連携を図り、訪問看護ステーションに毎週水曜日訪問を得て、健康チェックを行っていただいております。必要に応じて、訪問看護師に情報提供し相談しています。体調の変化を把握しながら、受診時のアドバイスや受診後の報告を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には家族様、医療機関と事業所間で情報交換に努め、入院時は薬の情報や生活の様子を伝え退院時は看護サマリーの提出もお願いすることになっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針を家族に配布するとともに、職員にも周知を図っています。想定される家族様とは、重度化した場合や終末期のあり方について早い段階から事業所でできることについて十分に説明し話し合っています。	入居時に重度化した場合の対応を説明し、家族の同意を得ている。重度化した場合には、改めて家族に説明し、施設内での看取りや他機関への移送を行っている。本年度は1件の看取りを行った。終末期のケアや看取り対応など、訪問看護師による研修会を開催し知識の修得などを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応するマニュアルを整備し、緊急時の救急車の要請や家族連絡の仕方話し合い職員で情報を共有しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練を年2回開催しています。地元の消防団の防火点検も行われています。	総合訓練を毎年2回実施している。以前は、地域の住民の支援、運営推進会議委員の参観も行っていたが、コロナ禍のためここ数年は職員だけの訓練としている。3日分の食料、反射式ストーブ2台、ガスコンロを確保し、電気は自動車から取ることにしている。AEDも設置しており、取扱い方法の訓練も実施したい意向である。なおハザードマップでは、被災対象地域外であることを確認している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームなかがわ(西棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護に関する規定及び運営管理規定に基づき、人格を尊重し、不快な思いをさせないような声掛けを行うよう配慮しています。入居者様の声に耳を傾けるようにし、大きな声や命令口調にならないように心掛け入居者様の気持ちや誇りを傷つけないよう、また不安な気持ちにさせないよう支援しています。	利用者に対し「～様」と丁寧に優しく対応するよう言葉遣いに留意している。居室への入室の際のノックや声掛け、脱衣の了承、失禁時の案内、トイレでもタオルを使うなど、利用者の羞恥心や心情に寄り添い丁寧に対応している。個人情報は、個別にファイルして保管しているほか、パソコン情報についてはパスワードで管理している。利用者それぞれの生活スタイルを尊重し、位牌を供えている方の水あげなどにも対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に希望が話せたり、自己決定がしやすい雰囲気作りに心掛けています。上手く表現できない入居者様には、職員が思いを汲み取り代弁するようにしていますが一方的に決めつけず入居者様の意思の決定を待つように努めています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課は決まっていますが、無理強いくことなく、一人ひとりペースに合わせて生活できるよう支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は入居者様に好きな服を選んで着ていただくようにしていますが、季節や気温を考慮してさりげなく声掛けし適切な物と交換していただくなど支援しています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯とみそ汁はホームで作リ、お惣菜は宅配を利用していますが、季節の行事などは入居者様と相談し一緒に作っています。	食材は宅配チルドで対応し、ご飯と味噌汁は事業所で調理している。利用者は味噌汁を作る際の包丁での刻み、下膳、茶碗洗いなどのお手伝いを行っている。おやつは手作りや購入品のほか、家族の果物の差し入れも利用している。節句ごとの海苔巻き、ちらし寿司、おはぎ、ぼた餅のほか、年始年末にはお雑煮、あんこ餅、年越し蕎麦を提供し、郷土料理のすいとん、芋煮のほか、夏にはスイカ割りも行った。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームなかがわ(西棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の意向や家族様、かかりつけ医、訪問看護師とも相談しながら、一人ひとりにあった食事量、食事形態の工夫をしています。食事量、水分量の摂取は記録しており十分な食事ができないときは補食を勧めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事のうがい、歯磨き、義歯の手入の声掛けを行い、できるところは入居者様に行っていただき、できないところの介助や仕上げを支援しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け誘導するとともに、表情やしぐさから排泄のサインを読み取り誘導しています。	排泄チェック表を活用しながら、利用者の仕草や様子を見てトイレに誘導している。ズボンの上げ下げ、見守りなどは最小限とし、自立支援を心掛けている。一斉声掛けは、食事の前後や就寝前である。夜間トイレ利用は6名で、布パンツ使用は4名、夜間のオムツは1名である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表から排便を把握し、かかりつけ医や訪問看護師に相談しながら便秘薬の投与をしています。水分摂取、軽い運動、散歩などで自然排便ができるよう予防に心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっていますが、その時々で柔軟に対応し、一人ひとりのタイミングで入浴ができるようにしています。(入浴したくない時は翌日など) 時には、入浴剤で温泉浴やゆづ湯などにしています。	入浴は週2回(月・木、火・金、水・土)とし、利用者の意向に沿って午前、午後のいずれかに対応している。車椅子利用者には、職員が2名で介助している。気持ちよく入浴できるよう温泉入浴剤を活用するなど配慮し、季節に応じ柚子湯や菖蒲湯なども提供している。入浴後は希望者へ保湿クリームを体に塗っている。入浴時は歌や昔話で和んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファなど休みたいところで休めるようにしています。日中はレクリエーションや体操、散歩を行い夜間の安眠を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は緊急時に持ち出せるよう1冊のファイルで管理し、いつでも職員が見られるようにしています。薬が変更になったときはグループセッションにて全職員が把握するようにしています。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームなかがわ(西棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者ごとに、できること、できないこと、好きなこと、嫌いなことがあるので体調を見ながら、強制にならないよう、調理、片付け、洗濯物たたみなどの家事を担っていただいております。行事やドライブなどで気分転換が図れるよう支援していきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望をお聞きしながら、お花見など紅葉狩りなどドライブをしました。今年は町内の文化祭も開催されたので、感染対策をしながら文化祭の見学も致しました。	好天の日はテラスで日向ぼっこや歌を歌ったり、散歩に出ることもある。通院の際に近くの名勝を訪ねたり、夏場には校庭を散策している。花見や紅葉の季節には、ドライブがてら近隣の名所へ出向くなどして季節を感じている。また、今年は地域の公民館で3年ぶりに開催された文化祭をみんなで見学できたとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様がお金を所持することは認めておりますので、お金のお預かりはしていませんが、入居者様の希望する買い物は家族に話し、立替えの形で購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望があればいつでも電話や手紙を出したり、外部からの電話や手紙を受け取ることができます。家族にうまく伝えられない入居者様については面会時に伝えるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、温度に配慮しながら毎日の清掃を行い清潔を保っております。ソファ、テーブルなど好きなところでくつろげるようにしています。テーブルや椅子もそれぞれ入居者様に合わせて高さを調節したり回転椅子や回転しない椅子など利用いただいております。季節の飾りやゆず湯を行ったり手工芸を飾ったり落ち着いた空間作りに努めています。テラスや校庭の散歩をしながら季節感を感じたり気分転換が図れるよう心掛けています。	白を基調とした広いロビーは、大型の窓から光が入り明るく、ソファや食事用テーブルなどで、テレビ、趣味やゲームなどで寛いでいる。壁には、手作り作品や活動の写真、婦人会提供の飾りボードなどが飾られている。足マッサージ器、足ふみ台の訓練用具も用意されている。玄関ロビーには、段の飾り雛、移動図書館の本棚、の利用者が作成した農家屋敷のミニチュワ、ぬいぐるみなどが飾られている。室温は、パネルヒーター、FF式石油ストーブで管理され、空調は、空気清浄機や加湿器などで調整されている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームなかがわ(西棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置があり、その時々で好きな場所を選べるように支援しています。居室に表札を掲げたりトイレに案内を表示し迷わないように安全に通れるよう通路を確保するようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様や家族様と相談し、慣れ親しんだ物を自由に持ち込んでいただいております。入居者と相談しながら居室の配置をしています。	温度等はパネルヒーターや加湿器で管理されている。ベッド、チェスト、テーブル、椅子、テレビ端子が設置され、テレビや衣装ケース、化粧品、家族写真、ぬいぐるみ、位牌などが利用者の意向に沿って持ち込まれている。夏場には西日除けに葦簀をかけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には、入居者様やご家族様の了解のもと表札をかけて自分の部屋がわかるようにしています。また、また、トイレの表示を行い安心して生活ができる環境を作っています。		